

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 家庭的な住み慣れた場所で安心してゆったりと住み続けて頂けるよう、「寄り添う」「付き合う」「断らない、否定しない」という理念を職員と共有している。又地域の方々「共に考え共に築く」ことを経営理念としている。 | 医療法人理念を基に、地域住民と交流を図りながら、個々が自立した日常生活を営むことを目標に、管理者と職員は寄り添い、気付き、生き甲斐の持てる毎日を提供していました。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 併設する病院や老健の廊下にて当施設の情報や利用者の作品を展示することで、訪れた方々に関心を持ってもらえるようになった。又、今年二月からはコロナの影響もあり実施できていないが、認知症カフェにて地域の方を招き、利用者とスタッフそして地域の方々が交流できる機会を定期的につくっている。 | コロナ禍で感染が心配され、地域の方やボランティア、学生との交流を制限されていました。管理者に音楽療育形成の講師がおり、積極的に学生や地域の方との音楽交流を行っていました。制限がありますが利用者の楽しみを提供されていました。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 今年にはコロナの影響もあり実施できていないが、毎年病院祭では、地域の方々に対し施設案内や施設説明を行っている。又、認知症カフェにて認知症の症状を分かりやすく説明したりビデオを見たり、地域の方から認知症の相談も受けている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。 | 今年にはコロナの影響もあり書面での報告となっているが、現在取り組んでいる事やスタッフの紹介、行った行事等について報告している。封筒には必ずアンケート用紙と返信封筒を同封し、意見をもらうようにしている。 | 会議は、本人、家族、地域住民、地域役職者、行政と大勢が関わり、施設の活動、利用状況、事故やヒヤリハット等、取り組みが検討されていました。コロナ禍では書面で行い返信用封筒も同封し意見をまとめていました | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。 | 入所に関する相談や加算点等の規定についてまで、幅広い分野において連絡を取り相談ののってもらっている。実際のケアやグループホームの在り方や取り組みの内容なども率直な意見をもらいサービス向上に生かすようにしている。 | 市高齢者介護課とは、常に連絡を取り、施設で抱え込むことなく電話等で対応を協議されていました。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 定期的な研修を行うことで拘束に対する理解を深め、実際に現場で職員全体で取り組むようにしている。平成24年より玄関の施錠開放を実現させ、抑圧感のない暮らしの支援を行っている。 | 身体拘束は、毎月行う研修に議題として取り上げ、職員全体で取り組まれていました。玄関には「虐待・拘束ゼロ」が掲示され常に意識されていました。身体拘束委員会を中心に検討、家族にも説明されていました。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 利用者と最適な関わりが持てる様職員全体で話し合いの機会を持ったり、定例会議にて勉強の時間を設け、グレーゾーンについても意見を交換しながら、周知徹底に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 管理者や職員は研修に積極的に参加し、職員全員が理解できるよう教育している。今は成年後見制度を利用している利用者はいないが、今後そのような方が入所されても安心して暮らせるよう知識を深めていく。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 入所前から電話等も用いながらご家族様と積極的にコミュニケーションを取り、理解・納得いただけるように十分に時間を取っている。入居前には必ずご本人様に直接会いに行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 今年にはコロナの影響もあり地域の方や家族の方に書面でのアンケートをお願いしているが、通常は生活相談員、ご家族、ボランティア等様々な来訪者からの意見・要望を参考に検討、実践している。 | コロナ禍で、家族や地域の方が訪問できず、意見を思うように聞き取りれない中「お茶のみ友達」たより等を配布、活用して意見の反映に努めていました。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月の職員会議にて意見を出してもらっている。必要に応じ面談を行い現場で起きている状況や変化を把握するようにしている。新しい職員については入社後3か月、半年と必ず主任、管理者と面談を行うようにしている。 | 職員の意見は職員会だけでなく、普段から意見が言いやすい体制をとり、職員がやりがいの持てる職場を提供されていました。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 平成28年度よりキャリア段位制度を導入、実行しそれに伴った給与体系にしている。スタッフが利用者の担当になりADL表や課題分析を行うことによってやりがいや責任感に繋がるよう努めている。又短時間のみや日中のみ、お食事のみといったパートさんを増やすことで残業時間を減らし規定の公休が取得できるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 平成28年度よりキャリア段位制度を設け、入社時期や取得資格等も表にしながら、リーダー研修や実践者研修、喀痰吸引の資格取得等順番に受ける機会を確保している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | 今年にはコロナの影響もあり参加できていないが、毎年県の働きかけ総合評価事業に参加し、フレンド会、事例検討会、宅老所グループホーム協会研修等の活動に参加することでケアの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 利用者が入所する前から、以前担当されていたケアマネさんや施設又は家族から十分に情報をいただき全スタッフが周知できるようにしている。入居前にはご本人に必ず会いに行き面接をしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 十分に気を配り対応している。利用者の小さな変化はすべて直接あるいは連絡ノートで申し送り、ご家族にはいつでもどのスタッフでも対応できるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 以前入居されていた場所のサービス計画を基にご家族も納得される説明をするよう心掛けている。入居後一か月でモニタリングと課題分析をし新しいケアプランを作成している。又併設する病院や老健にも適宜相談し、連携しながら本人の希望に沿えるようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 担当制にすることで利用者に深く興味を持ち、その背景にあるものや生い立ち、家族構成を考える事ができるようにしている。それにより「教えてもらっている」「寄り添う」「共に生きる」ということが自然と出来ている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 今年はコロナの影響もあり家族が施設を自由に行き来出来ない日々が続いているが、タブレットを使いテレビ電話、日常生活を動画や写真で日々ご報告、利用者に何かあったらすぐに電話で家族に相談、報告するなど、利用者のケアに常に家族を巻き込むようにしている。家族にも一緒に考えてもらう様にしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 今年はコロナの影響もあり数多くは出来ないが、馴染みの方との手紙をスタッフが手伝いながらやり取りしたり、懐かしい場所や昔行ったスーパー等にドライブで行ったりしている。 | コロナ禍で、今まで馴染みの方との関わりは持てませんが、買い物やドライブが行われていました。施設の隣は、小学校や電車の駅があり、地域での生活が感じられる場所でした。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 認知度の違いや性別に加え、心身の状態や日々変わる感情を注意深く見守り、適宜席順を変更したり、日々のケアの順番を変える、時間を掛け、寄り添って話す等スタッフが調整役となって支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|---|---|---|------|--|
| | | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | サービスが終了しても相談に応じ、希望に沿えるよう支援している。又、併設する病院や施設にも働きかけ、法人全体でバックアップし本人・家族が安心できるよう努めている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | ケアプランの下書き段階までスタッフの担当制にしたこと、また課題分析の仕方を勉強し直したこともあり、利用者の思いや暮らし方の希望をより把握できるようになった。又顔の表情や話の内容などちょっとした変化についても職員同士密に報告、相談するように努めている。 | 一人ひとりの希望を本人・家族から聞き取り、検討がされています。特に利用者への担当制をとり、担当がプランの下書きをされていました。そのためプランに責任を持ち注意深く利用者と接する姿があるとの事でした。 | | 担当がプランの下書きを作るのは大変ですが、利用者として向き合い、希望を汲み取ることができると聞き取りました。思いの汲み取りや、寄り添いを希望します。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 今まで利用者が通われた施設からは多数情報をいただくようにしています。ご家族からも適宜話を聞き、これまでと変わらない生活が提供できるよう努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 申し送りノートや連絡ノートを活用し、職員全員が利用者の現状を把握できるよう努めている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 介護計画書の作成を担当制にしたことで、全職員が利用者本人だけでなく家族らと電話で報告・相談が出来ている。それを月一回のカンファレンスで報告し、担当でない職員とも意見交換しその人に最適な介護計画を作成することが出来ている。 | 介護計画は担当制にすることで、利用者の気持ちに寄り添い傾聴されていました。担当が家族とも細かく連絡をとり、不明な点は他職員へ相談することも多く、カンファレンスにつなげていました。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個人ファイルに日々のバイタル、体温、脈、食事量や水分量、排泄、毎月の体重測定の結果から、日々のエピソードまで細かく記録している。それを全職員が確認し情報の共有をしながらケアプランの見直し、変更を生かしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | それぞれの利用者の介護度や認知度、又性格に合わせて日々生活してもらうことを心掛けている。○時～口腔ケア、○時お昼寝といったマニュアルは単なる指標であり強制ではない、利用者のニーズに合わせてながら利用者の時間軸でやってもらうよう職員には教育している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 今年コロナの影響もあり実施できていないが、図書館の本の無料貸し出しを利用したり、地域住民の作品展示物の鑑賞や朗読ボランティアをはじめとした様々なボランティアの活用、又学生の体験学習の場を積極的に受け入れ、地域の方々と接しながら暮らしを楽しめるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 平成26年6月より、毎月一回併設病院の医師と看護師による訪問診療を行っている。専門医の受診も家族の同意のもと行っている。しっかりした健康管理体制のもと家族ともより良い関係が出来、希望に沿った支援が出来ている。 | 入所時に本人家族と医療の確認を行っています。かかりつけ医の通院は家族の協力をお願いしています。法人の医療体制もしっかり整い連携も取れていました。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 同法人内の看護師に直接あるいはインターホンにていつでも報告・相談が出来るようになっている。訪問診療をしていることもあり病院受診の際は必ず内科あるいは外科ナースに相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 同法人内の連携は密に取れており、夜間急変や入院時は度々情報を共有するようにしている。他病院に入院した場合は入院先のケアマネやケースワーカーと密に連絡を取り、必要時は家族の相談にも乗っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 看取りに近づきつつある段階で家族の思いを大切にしながら、医師、看護師、関係者連携のもとで施設で出来るケアの内容を説明し看取りの指針を共有している。職員はエンゼルケアの勉強会にも積極的に参加しスキルを高めている。 | 終末ケアは、家族と看取り職員を中心に法人の病院と協力し対応されていました。家族の希望があれば看取りに関わる体制も整っていました。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 全ての職員が、隣接病院にて毎月催す医療研修会に積極的に参加し、日頃のケアに生かす実践力を身につけられるよう努めている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 毎年、法人全体で二回の防災訓練と、グループホーム独自で夜間を想定した訓練を行っている。実際に訓練を行うことにより、避難の方法等課題を見つけ検討している。また、地域の消防団や自治会の方の協力体制も出来ている。 | 非常災害が発生した場合の避難経路、関係機関との連携方法は確認され周知されました。地域の関係機関と連携も図られ、定期的に避難、誘導等訓練がされていました。施設には病院、健康管理センター、高齢者施設が併設し協力が得られていました。 | 災害時の協力体制ができていました。外部者が利用者の移動を妨げ、混乱が生じないよう移動方法の表示を希望します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 利用者一人一人に対し、心の動きを大切にしたい声掛けやケアを常に心がけている。入浴時や排泄時など特に利用者の羞恥心に配慮しなければならない場面では、より一層慎重な声掛けをしている。又自分に置き換えて考えられるよう職員には教育している。 | 個人情報保護方針が作成され、本人、家族、職員に周知されていました。職員は利用者の羞恥心に配慮し声掛けをされていました。管理者からは、嫌なことは「嫌」、自分に置き換えて関わるよう常に発せられ、職員はそれを意識して支援していました。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 職員が各々の利用者に合わせて声を掛け、返答だけでなく些細な表情やしぐさを読み取りながら本人が自己決定していけるよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 1人1人のペースを尊重しそれに合わせた対応に心掛けている。口腔ケアや与薬、昼寝等一通りのマニュアルはあるが、利用者のペースに合わせ時間に縛られることのない様職員には教育している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 着衣はご本人の意向で決めていただいている。薄着や厚着の調整が出来ない場合は、否定はせずに一度受け入れ、気候の話等しながら職員が提案する形で支援している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 常食以外の、ミキサーや刻み食の方に対して見た目も大切に、食欲をそそるメニューを手作りで提供するとともに、利用者の希望にも配慮している。施設の庭で採れた季節の野菜を食卓に出したり、いただいた素材を用いて皆でおやつ作りをしている。 | 個々の利用者にあった食事形態が提供されていました。誕生会など行事食も工夫し楽しまれています。またできることをするをモットーに、毎日のメニューの表記や食器やテーブル拭きは利用者の役割として行われていました。口腔ケアも行い、誤嚥性肺炎の予防に力を入れていました。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事量や水分摂取量は生活記録により全職員が把握しており、声掛けや食事の提供の仕方を工夫しながら全利用者が完食できるようにしている。体重の増減や本人の変化等みられる場合は適宜関連施設の管理栄養士に報告、相談をしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 1人1人の口腔状態に合わせてケアをしている。ご自分で磨く方も職員が最終チェック、介入を行うことにより、口腔内のトラブルや義歯の破損等も早期発見することに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。 | チェックリストを利用し、利用者の排泄パターンや本人のしぐさからトイレを察知し、出来るだけ失敗しない様トイレ誘導している。残存機能を生かせるよう、一人一人丁寧に見守りをして排泄の自立支援に努めている。 | 排泄の自立に努め、個々のパターンを探り、また仕草などから排泄を察し、自立の支援につなげていました。トイレは、「おべんじょ」と表記され、カーテンでプライバシーを守っていました。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 日頃より乳製品や食物繊維の多いものをバランスよく提供している。毎日行う体操にて自然排便を促すような体操も取り入れている。便秘症の方には個々の状態に合わせて下剤の使用量や頻度を調整している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。 | 利用者の意向に合わせて、職員と一対一で、日頃の思い等話しながらゆっくり入っていただけよう努めている。またゆず湯や入浴剤を用い入浴を楽しめる工夫もしている。機械浴等用い、身体機能の低下した方にも対応できるようになっている。 | 入浴はゆったり気持ちよくするために、できるだけ同性介助を心がけ、また羞恥心を感じさせないようタオルをかけて行っていました。入所されたばかりで入浴拒否される利用者には、家族の協力もお願いしているとのことでした。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。又一人一人の体調や表情、希望に合わせ、ゆっくり休息が取れるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 誤飲を防ぐため服薬チェック表を作成し、二重チェックすることにより、事故を未然に防ぐ体制を整えている。月に一度の定例受診では利用者の日常の変化を伝え、服薬を調整している。その結果報告は全職員が周知できるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 入居時にご家族やご本人から以前の性格や趣味を十分聞き取り、得意分野で一人一人の力を発揮してもらえる支援をしている。お願いできそうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉をお伝えするようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 今年はコロナの影響もあり全ては実施できていないが、家族の協力で外泊・外出したり、天候に合わせ散歩に出かけたり、季節ごとにお花見や鯉のぼり見学、道の駅での買い物や外食、足湯への外出等利用者がリフレッシュできる機会を出来るだけ作るよう努めている。 | コロナ禍で思うような外出支援は行えていませんが、例年外出や買い物計画を立て、お花見など季節ごとに外出を楽しみ、生活に変化を持たせ、張り合いの持てる毎日につなげていました。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 安全面と防犯面を考慮し利用者本人に常に金銭を持たせることはしていないが、買い物やお出かけ時には物の値段を意識し積極的に支払いをしてもらえるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 家族や知人から手紙が届いた際は読んでいただいたりこちらで読んだりし、お返事を書く支援をしたり、電話やテレビ電話も積極的に用いて折り返し返事ができるように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールには対面式のキッチンがあり、様々な音や香りが感じられ、窓も大きく外の景色を楽しみながらくつろげる空間を提供している。また壁や廊下には利用者の作品や行事の写真や飾り、各居室やトイレ、風呂などは利用者にわかりやすい表示をし、安心して過ごせるよう配慮している。 | コロナ禍のため、玄関、廊下、食堂を距離を置いて見学しましたが、廊下には利用者の作品や写真が飾られ、楽しい日常がうかがえました。建物は明るさを取り入れ、大きめの窓からは四季折々の花や風が感じられるよう工夫されていました。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 玄関ホールにソファを置き、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士と一緒にくつろげるスペースがある。ご自分の指定席もあり(適宜席替えをしている)、思い思いにくつろげるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ご家族やご本人に以前のお部屋の間取りや机の配置などお聞きしながら部屋の間取りを設定し、住み慣れた環境作りに努めている。写真や思い出の品々も自由に置いてもらい居心地よく過ごせるようにしている。 | 居室入口は、より分かりやすく色別のカーテンがされ認識度を高めていました。施設は電車の音や子供たちの声が聞かれ、庭は家庭菜園ができる空間があり、塩田平のゆったりしたやさしさが感じられました。今までの生活を大切に使い慣れたものを各自持参されていました。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 利用者の目線に合わせた位置に名前を貼り、トイレが分かり易いように昔の呼び方で大きく書いて表示している。居室入口のカーテンの色で自分の部屋だとわかる工夫をしている | | |